

e シンキング (ひとづくり広域連合政策情報メルマガ) 第 31 号

2007 / 5 / 15 発行 (月 1 回発行)

各職員に、転送または配布をお願いします。

【 目 次 】

今月のトピックス

「ダイバーシティ」

広域連合からのお知らせ

平成 19 年度政策研究発表会参加者募集中

平成 19 年度政策課題共同研究 研究員再募集

政策情報誌「Think-ing」第 9 号の特集テーマ募集中

平成 19 年度自主研究グループ募集中

現場レポート

第 4 回 聖学院大学都市経営シンポジウム

『道州制を問う - 新たな府県と市町村 - 』

今月のトピックス

- - - 「ダイバーシティ」 - - -

ダイバーシティとは、英語では Diversity、多様性を表しますが、最近では、組織における人事・労務用語として、「多様な人材を活かす戦略」という意味で使われています。

ダイバーシティの考え方は、もともとは、多様な人種を擁するアメリカの社会問題に端を発していますが、近年、欧米はもとより日本においても大手企業を中心に急速に浸透してきています。

ダイバーシティ浸透の背景には、経済のグローバル化や価値観の多様化など企業を取り巻く経営環境が大きく変わったことがあります。従来の枠組みによる固定的な経営戦略からの脱却を図るために、人的な多様性による新たな価値創造を目指していこうとする戦略です。このダイバーシティの考え方のもとで、

女性リーダーの育成や外国人社員の採用、またワークライフバランスによる人材の有効活用などに積極的に取り組んでいる企業が増えています。

多様な人材一人ひとりの存在を認め、その持てる能力を発揮することのできるような職場環境やシステムの構築により、企業の成長のみならず、個人にとっても生きがい・働きがいを生み出すことにつながるダイバーシティの考え方は、企業に限らず多くの組織体で注目されています。(か)

広域連合からのお知らせ

平成19年度政策研究発表会参加者募集中

現在、平成19年度政策課題共同研究・行政課題研究発表会の参加者を募集しております。まだ座席に余裕がありますので、奮ってご参加ください。なお、参加希望の方は下のリンク先の様式でお申し込みください。

日時 平成19年6月1日(金) 13:00~16:30

会場 埼玉県県民健康センター 2階 大ホール

(JR浦和駅西口徒歩15分、県庁第2庁舎北となり)

内容 (1) 行政課題研究の発表

「人材開発のあり方に関する懇話会報告」

(2) 平成18年度政策課題共同研究成果発表(2チーム)

「豊かな人口減少に向けて

～一人ひとりが社会の担い手として

一層活躍することが求められる時代へ～」

「自治体と『企業・大学・NPO』との連携

～win-winで成功しよう～」

(3) 基調講演

テーマ:「分権時代の 協働 政策と地域経営」

講師: 明治大学政治経済学部教授 牛山 久仁彦 氏

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/03/H19/H19.htm>

平成19年度政策課題共同研究 研究員再募集

平成19年度政策課題共同研究の研究員を再募集します。テーマに興味・関心がある、または他団体の職員と共同で研究してみたいという方は、ぜひご参加ください。

今年度のテーマ

ワーク・ライフ・バランスと組織の活性化

これからの地域公共施設の役割・機能について

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H19/H19.htm>

研究員再募集の詳細は

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H19/bosyu.htm>

政策情報誌「Think-ing」第9号特集テーマ募集中

当広域連合では、政策情報誌「Think-ing」を年1回発行しています。
特集コーナーでは、有識者や自治体職員に寄稿いただいたり、その事例を紹介しています。つきましては、その特集のテーマとして、これからの自治体の課題を大きくとらえたテーマを募集します。是非、ご応募ください。

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/09/theme/bosyu.htm>

過去のThink-ingについては

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/top.htm>

平成19年度彩の国さいたま人づくり広域連合自主研究グループ募集中

当広域連合では、行政の推進に必要と認められる事項について研究活動を行う、県職員又は市町村職員を主たる構成員とする自主的に結成された研究グループに対して、支援を行っています。

つきましては、平成19年度の自主研究グループを募集しますので、是非、ご応募ください。

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/05/jihatsutop.htm>

=====

現場レポート

第4回聖学院大学都市経営シンポジウム

「道州制を問う - 新たな府県と市町村 - 」

平成19年4月26日 17:30~20:30 大宮ソニックシティ小ホール

第4回を迎えた今回のシンポジウムでは、安倍内閣の下、具体的な検討が進められている道州制をテーマに、第1部で基調講演、第2部では上田県知事を

含む4名によるパネルディスカッションという内容でした。

第1部では、(財)東京市政調査会理事長で、第28次地方制度調査会臨時委員を務めた西尾 勝氏より、「道州制への課題と展望」と題した基調講演が行われました。西尾氏は、まず、「今日の道州制は、平成の大合併による市町村数の減少から、“次は道州制”という流れで再浮上してきた議論である。そもそも道州制については、戦前から、様々な団体から様々な考え方が出てきていた、ここで初めて出てきた議論ではない」、さらに「道州制とは何かと問われても確定した定義はなく、誰にも答えられないもの」と述べた上で、この道州制については、慎重に対処していかなければならない「危ない議論」であると強調されていました。

その後は、「道州とは『都道府県に代わる新しい広域自治体』であり、所掌業務の範囲については、『国の各省庁の地方出先機関の所掌業務の大半と都道府県の所掌業務の一部』とする」という説明の他、移行手順や財政調整などの制度設計についても話がありました。

最後に、道州制については、「いつか実現するかもしれないが、少なくとも10年以上先のことで、それ以前に解決すべき課題(三位一体改革など)の解決さえできないのであれば実現などあり得ないが、この『危ない議論』を牽制する意味において、皆さんには関心を持ち続けてほしい」と述べ、講演を終えられました。

第2部のパネルディスカッションでは、法政大学経済学部教授の黒川和美氏、埼玉県知事の上田清司氏、元自治事務次官の松本英昭氏、(社)日本青年会議所副会頭の石橋秀郎氏をパネリストに迎え、道州制をどう認識しているか、現在の都道府県・市町村制度の問題、道州制のメリット・デメリット、質疑応答、という構成で議論が進められました。以下、一部簡単に触れると、「道州制は自前の政策形成を可能にするが、そのイメージや意義を提示できていない」(松本氏)、「例えば産業振興のためのインフラは誰が責任を取るのか、また都道府県の多くが“食っていけない”様な財政状況であり、そうした問題解決への一つの選択肢」(上田氏)、「道州制は、特に税源移譲による財政格差を現在より縮小可能にすると考えるが、そもそも道州制は国全体が“沈まない”ようにするにはどうしたらよいかという考えのもとで議論されなければならない」(黒川氏)、「道州制は、その地域の文化・歴史ある“まち”を守ることに相反する可能性があるだろう」(石橋氏)などの意見が交わされ、活発な議論となりました。(B)

=====

ご意見・掲載希望

今月号のeシンキングはいかがでしたか?ご意見・ご感想がありましたら下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポートな

どの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」というものがありましたら、お気軽にご連絡ください。

[eシンキング / 毎月15日発行]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部 (河原塚・小澤)

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-24-1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: jinzai03@hitozukuri.or.jp

=====